

平成28年度学校法人 三幸学園 千葉こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 副校長 稲毛 耕

学校関係者評価報告責任者 : 学校関係者評価委員会委員長 新楽 竜夫

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「保育を通じて日本を明るく元気にするというビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する 人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・人間性を高めるための教育実践

「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真の社会に役立つ人材輩出することができると考えている。学習の成果として、就職決定率、資格取得率において高い結果を残すことが出来た。基本となる社会人基礎力の習得においても行事・課外活動等を通じて養う事ができた。また、昨年度の課題であった退学率も教員陣が一丸となって将来像をイメージさせながら学生生活を過ごさせることにより、減少をすることができた。

次年度も退学率の更なる減少、実習に向けた指導内容の充実、卒業生へのサポート支援体制の構築、課外活動・ボランティア活動の活性化等を課題として取り組む必要がある。

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・目的意識をはっきりせずに進学してしまうと、実習や勉強など辛い場面に遭遇した時に対処できない。入学する前に現状を伝え、保育士になった際に自覚を持って入学していただくことが大切。
- ・どのような時も子どもが好きな気持ちがあれば、就職して現場に出たときにくじけない。授業では味わえない子どもとの交流をしていきたい。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・ 保育業界のニーズに対応した人材育成像を教員・生徒が理解し、具体的な目標として目指す将来像と合致させる
- ・ 保護者、生徒への学校の理念・目的・育成人材像・将来構想の浸透。
- ・ 挨拶やコミュニケーション能力は、生徒によって差が生じているため、業界の即戦力となるようボランティア・現場実習などを通して指導強化していく

② 今後の改善方策

- ・ ミッションビジョンポスターを校内掲示し視覚から浸透させる
- ・ 保育園・施設訪問を更に積極的に行い現場の話を聞き、業界のニーズに合わせた目標を設定する
- ・ 収集した情報を多面的に評価し、教育課程の編成に活用していく仕組みを構築する
- ・ 産学連携やボランティアの強化

③ 特記事項

- ・ 教育理念、目標、人材育成像を体系化し全教職員への浸透を図っている
- ・ 三幸学園の原点「あきらめない教育」を小冊子化し配布、全教職員に浸透している

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 生徒が授業内で壁面製作をして、近隣の保育現場で活用してもらうのがいいのではないかと。月に何回か延長保育の手伝いや、生徒が企画した運動会に参加させていただき、生徒の保育力向上につながる。

(2) 学校運営

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・グループウェアの活用した情報共有等による業務の効率化をさらに推し進める

② 今後の改善方策

- ・グループウェアの効果的な活用方法の理解促進
- ・生徒へ情報伝達ツールとして携帯で見られる掲示板も開設している

③ 特記事項

- ・2015年4月三幸学園システム推進室設置により、グループウェアの活用がより効果的・全社的に遂行できるようになった。
- ・年に3回の全教職員会議を実施し、運営方針の浸透・情報共有を行っている。
- ・効率化する為に、電子管理システムなどを取り組みたい。
- ・コンプライアンス委員会発足により、より法令順守を意識していく
- ・残業時間の軽減を学園全体で取り組んでいる

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(3) 教育活動

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなど マネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・実践的なキャリア教育を推し進めるために、業界・社会のニーズに沿ったカリキュラム・教育方法を最適化する。
- ・資格取得カリキュラムの体系的な位置づけは業界側からの意見として、資格取得状況は現場での評価や勉強する姿勢など評価できる部分なので就職先とリンクした指導が必要
- ・座学が中心となり、子どもや保育士と接する機会を多く提供できていない。

② 今後の改善方策

- ・外部からの評価を行ってもらう
- ・能力開発の研修等を取り入れる
- ・就職先のアンケート・評価を行うことも検討していく
- ・地域の保育園等と連携を図り、授業内での発表会やボランティアへ積極的に参加していく。

④ 特記事項

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

学校として、実習前に実習先のニーズを把握・共有の強化が必要

→実習に向けて生徒たちをどのレベルにまで持っていくか、チェック項目を設けて今後につなげていく。

(4) 学修成果

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・資格取得率の更なる向上
- ・退学者のさらなる低減
- ・卒業生の社会的活躍の情報収集と教育活動への反映
- ・退学理由をより詳しく分析して、対策を考えていく
- ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価をあまり把握していない

② 今後の改善方策

- ・資格取得への動機づけの強化及び環境面の整備
- ・退学者プロジェクトに基づき、クラス報告会の実施と退学防止事例の共有を実施
- ・就職指導で卒業生講話・外部講話を実施
- ・最初に行うスタートアッププログラムでいかに意識づけさせる事が出来るかで変わってくる。
- ・退学率 7.7%で昨年度より低下するができた クラス会議の実施や教科担当との連携を行い、保護者様との連携も図った
- ・マンネリ化しない授業の展開。毎回同じ授業展開ではなく、飽きない授業をしていく
- ・業界外での就職希望が退学につながるの、姉妹校エクステンション授業を受けられるように改善検討していく。千葉校ならではのキャリア指導(医療・保育・美容)などを検討していく

③ 特記事項

- ・退学率低減プロジェクト設立
- ・プログテストと退学率の調査実施
- ・平成 28 年度進路決定率：96.6% (平成 29 年 3 月 24 現在)
- ・平成 28 年度退学率：7.7%

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(5) 学生支援

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・卒業生との連携強化及び支援体制の強化
- ・保護者との連携は問題のある生徒に偏る傾向がある

② 今後の改善方策

- ・同窓会SNS「三幸リンク」の活用とそこからの情報発信
- ・定期的な保護者への連絡を実施、学校行事等の見学機会を設定
- ・課外活動、ボランティア活動中の緊急対応マニュアル作成
- ・緊急時に学生に発信できる掲示板を作成し備える。

③ 特記事項

- ・保護者との連携はより連携をはかっている

④ 学校関係者評価委員会コメント

今後は、SNS や卒業生就職先訪問を行い、卒業生との関係構築が必須となる

(6) 教育環境

【評価項目】 (評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設, インターンシップ, 海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・更に質の高い教育をめざし、教育環境・体制を整備する
- ・実習を途中で諦めてしまう。生徒が例年出てしまっている。

⑥ 今後の改善方策

- ・社会のニーズに対応した職業教育を行うべく教育ツールを企業と連携して開発、整備する
- ・実習先との密な情報共有の徹底。(生徒・実習指導内容など)
- ・実習指導内容の見直し

③ 特記事項

- ・特になし

⑦ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・学生募集活動は適切に行っているが、入学後の学生状況や進路状況が適切に出身高校に伝えられていない

② 今後の改善方策

・首都圏地区の広報をサポートする首都圏広報室と情報を随時共有し、高校訪問にて学生の出身高校の先生方に状況を伝えてもらう

③ 特記事項

- ・学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている
- ・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8) 財務

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方法

【中期計画】

今年度に新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9) 法令等の遵守

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・更なる法令遵守の推進

② 今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、すべての職員に法令順守に対する啓蒙を積極的に実施していく

③ 特記事項

- ・2014年度自己評価結果より公開を開始

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】 (評価=適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1)	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・地域や一般の方に向けた子育て支援教室等の開催頻度が低い。

② 今後の改善方策

- ・地域貢献に繋がる子育て支援を実施。
- ・地域の保育園や施設等のボランティアへ積極的な告知

③ 特記事項

- ・12月20日に保育発表会を実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11) 国際交流（必要に応じて）

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	2
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

① 課題

- ・留学生に対して、積極的な募集活動を行えていない現状がある
- ・入学をいただいた際に実習先の確保が困難

② 今後の改善方策

- ・留学生向けのホームページ上コンテンツの強化
- ・留学生に対する説明会、ガイダンスの実施回数を増加
- ・留学生に対する就職先の確保、母国の業界状況の把握、母国の就職斡旋等を強化する
- ・同グループに日本語学校を設立したので、協力を得る

③ 特記事項

- ・2014年度から「留学生学費減免入学」制度を実施している

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・保護者に外国の方が多くなってきているので、保育者には英語力が大切になってくる。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結

- ・人間性を高める教育の実践 高い現場力の醸成

「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、各学科で重点教育項目を設定し資格取得率、就職決定率などの定量的な目標と社会人基礎力、人間関係能力向上など人間性を高める目標を掲げて学内での教育カリキュラムだけではなく課外活動・ボランティア活動など現場での経験値を高める機会を作り、現場力の向上に取り組んだ。

課題としては、人材育成像を生徒が理解し、生徒自身の具体的な目標として目指す将来像を早い時期に合致させて、高いモチベーションを維持し続ける仕組みや体制を更に整備することである。

また、担任力の強化や学校全体として教務力の向上を図るとともに、退学率の低減を確実に進めていき、そのためにも教員自身が「〇〇だろう」という推測での行動をなくし、一人ひとりが責任感を持って行動することが求められる。また学校の取り込みや体制を全教職員に理解・浸透させていき、自己評価の結果を踏まえ、業界や地域からも信頼され必要とされる学校になれるように、課題解決に取り組みながら学校運営をしていく必要がある。